



のき
学部播
大農直
岩手冬
初

安定した収量目指し

プロジェクトの集大成へ

盛岡タイムズ
2024/11/16 7面

積雪前のほ場に種も最後の種まき。

みを直接まく「初冬直播き（じかまき）栽培」の2022年度の種まきが15日、滝沢市巢子岩手大農学部附属滝沢農場で行われた。初冬にまいた種を雪の下で越冬させ、翌年秋に収穫する栽培方法を確立しようというもの。同大農学部の学生ら20人が参加し、稲刈り後の田をおこして整えたほ場に、来年秋に収穫する水稲の種をまき付けた。実施された直播きは、同プロジェクト

47種類を用意し、配置図に沿って手分けしてまき付けた。学生らは、種同士が重ならないよう丁寧に作業に取り組んだ。同大学院総合科学研究科1年の早坂和希さん（23）は「実用化に一步步近づいている」といふ。この研究が実ってくれたら「続けた価値がある」と笑みを浮かべた。下野教授は「明るい未来が見られるような、経営の助けになるような技術になることを願う。そのための集大成の播種（はしゅ）

種が重ならないよう丁寧にまいていく岩手大農学部の学生ら

産者と共同で行っているのが特徴。同日、採種年や保存条件、薬剤を変えて

※盛岡タイムズ 令和4年11月16日付/7面

※この記事は盛岡タイムズ社の許諾を得て
転載しています。